

2026

アジア・アジアパラ競技大会 NAGOYAビジョン

——アジアとともに輝く未来へ——
概要版

愛知・名古屋大会の概要

令和8(2026)年に、本市及び愛知県において、第20回アジア競技大会・第5回アジアパラ競技大会が開催されます。

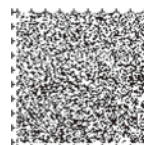
(1)第20回アジア競技大会の概要

正 式 名 称	【日本語】第20回アジア競技大会(2026/愛知・名古屋) 【英 語】20th Asian Games Aichi-Nagoya 2026
会 期	令和8(2026)年9月19日～10月4日 16日間
実 施 競 技	41競技
メ イ ン 会 場	瑞穂公園陸上競技場
参 加 者 数	選手団(選手、チーム役員)最大15,000人
大会コンセプト	◆アスリートセンタードの視点 ◆既存施設の活用 ◆先端技術の駆使 ◆伝統と県民・市民性に触れるおもてなし ◆アジア競技大会の開催を誇りに、 更なるスポーツ文化の普及へ貢献

(2)第5回アジアパラ競技大会の概要

正 式 名 称	【日本語】愛知・名古屋2026アジアパラ競技大会 【英 語】Aichi-Nagoya 2026 Asian Para Games
会 期	令和8(2026)年10月18日～10月24日 7日間
実 施 競 技	18競技
メ イ ン 会 場	瑞穂公園陸上競技場
参 加 者 数	選手団(選手、チーム役員)3,600～4,000人
大会コンセプト	◆アスリートセンタードの視点 ◆既存施設の活用 ◆先端技術の駆使 ◆伝統と県民・市民性に触れるおもてなし ◆アジアパラ競技大会の開催を誇りに、 更なるスポーツ文化の普及へ貢献 ◆共生社会の実現

した
下のマークは音声コード
「Uni-Voice」です。専用
アプリなどで読み取ると、
おんせい ないよう
音声で内容を聞くことが
できます。



1 2026アジア・アジアパラ競技大会NAGOYAビジョンとは

(1)ビジョンの意義

令和8年に本市及び愛知県において開催される第20回アジア競技大会・第5回アジアパラ競技大会(以下、「アジア・アジアパラ競技大会」という。)は、本市が今まで経験したことのない規模の国際総合スポーツ大会です。

アジア・アジアパラ競技大会の開催は、過去大会の実績から、選手、監督、コーチなどといった大会関係者や観客など、多くの方々がこの地域を来訪すると見込まれ、経済波及効果をはじめ本市の知名度の向上など、さまざまな効果が期待できます。

例えば、国際大会が開催できる競技会場の整備や誰もが安心・快適に過ごすことのできる都市基盤の整備など、大会の開催に向けさまざまな整備が実施されます。また、大会に参加するアジア45の国と地域の歴史・文化に触れることやさまざまな背景を持つ選手たちの最高のパフォーマンスを観戦することで、大会を通し国際感覚が養われ、多様性への理解を深める良い機会にもなります。

このように、国際総合スポーツ大会の開催は、開催都市のスポーツの振興だけでなく、都市が抱える社会課題などを解決し、住みよいまちをつくる「触媒」としての力が備わっています。本市では、アジア・アジアパラ競技大会を「触媒」とし、一過性のスポーツイベントで終わらせることなく、大会の開催効果をスポーツの振興をはじめ、交流人口の拡大、国際交流の促進、共生社会の実現、国際競争力の強化、都市環境整備の促進など、さまざま分野につなげていくことが重要であると考えています。

本ビジョンは、「夢や希望をはぐくみ、誰もが自分らしく生きる」「アジアとともに歩み、更なる飛躍を遂げる」をコンセプトに、大会の開催を契機として本市がめざすまちの姿を明らかにするために策定しました。また、本ビジョンのコンセプトを踏まえながら、具体的に4つのまちの姿を目指し、各種取り組みなどを進めてまいります。

まちの姿
1

健康・地域活力

「スポーツにより、市民が健康に暮らし、地域の活動が盛んになることで、活力ある都市」

まちの姿
2

魅力・誇り

「スポーツが新たな都市ブランドのひとつとして確立されるとともに、名古屋の魅力が国内外に発信されることで、にぎわいあふれ市民が誇りをもてる都市」

まちの姿
3

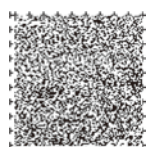
国際交流・多様性

「大会で、アジアをはじめとした諸外国や多様な人々との交流や理解が深まることで、豊かな国際感覚を備え、多様性に理解を示す市民が増えるとともに、国際社会で活躍する人材が育ち・集う、開かれた都市」

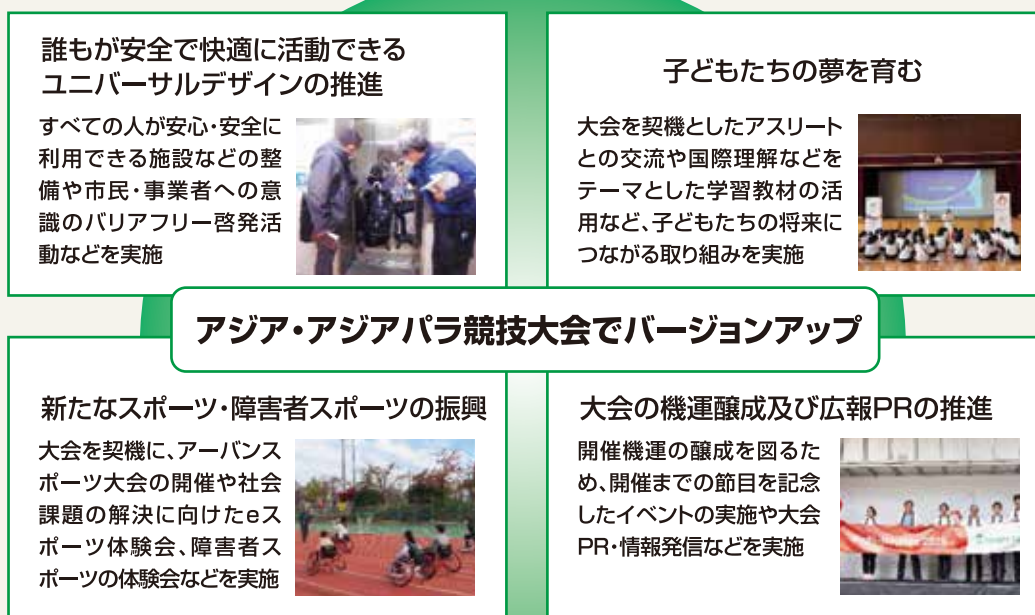
まちの姿
4

イノベーション・持続可能性

「大会で、活用した都市基盤、先端技術、危機管理体制などが、大会モデルとして未来に引き継がれることで、絶え間なくイノベーションし続ける、持続可能な都市」



<複合的な施策の展開イメージ>



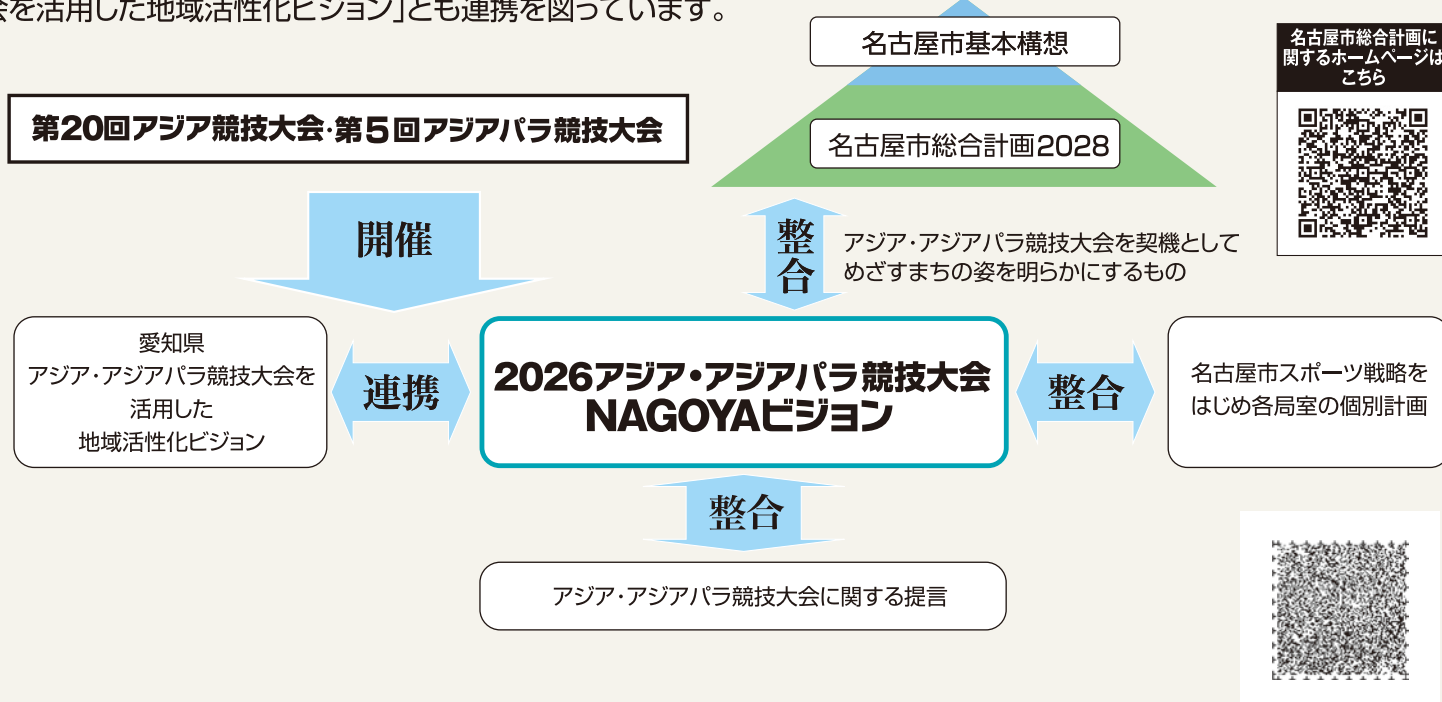
様々な施策を同時に展開し加速させることによりNAGOYAレガシーの形成へ

<NAGOYAビジョンのコンセプト>

- ・大会のかけがえのない記憶と感動を夢と希望として未来へつなぎ、誰もが自分らしく生きることのできるまちをめざします。
- ・アジアをはじめ世界の人々への相互理解を推進し、アジアとともに歩み、更なる飛躍を遂げ、持続的に発展する国際都市をめざします。

(2)ビジョンの位置づけ

本ビジョンは、アジア・アジアパラ競技大会の成功とその先を見据え、大会を契機として本市がめざすまちの姿を明らかにするものとして「名古屋市総合計画2028」と整合をはかりながら一体的に検討(P.9)を進めるとともに、各局室における関係分野にかかる個別計画との整合も考慮して策定したものです。また、愛知県が策定した「アジア・アジアパラ競技大会を活用した地域活性化ビジョン」とも連携を図っています。



(3)アジア・アジアパラ競技大会に関する提言(新たな理念)との関係

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を経て、大規模な国際スポーツ大会の開催意義が問われている中で、アジア・アジアパラ競技大会が市民などから支持される大会になるよう事業モデルをイノベーションし、時代のニーズに応えた大会開催を目指していく必要がある。大会に期待される役割を改めて整理した上で、大会を契機に地域が目指す新たな理念が令和6年3月に提言され、本ビジョンにおいてもその理念等を踏まえて策定しました。

【新たな理念】

アジアの 子どもの 未来の ために
(A better future for Asia, a better world for Children)

※「様々な社会課題を解決し、社会の変容につなげていくことで、子どもの未来につなげる」などのメッセージが込められています。

(4)持続可能な開発目標(SDGs)との関係

国際連合では、スポーツがSDGsの17の目標とそれぞれの達成に向けた課題に取り組む潜在的能力を備えた重要な強力なツールとして、その役割を果たすことを期待するなどスポーツを取り巻く国際的な潮流を鑑み、SDGs未来都市として、アジア・アジアパラ競技大会を契機としてめざすまちの姿を明らかにする本ビジョンにおいても、SDGsの「世界を支えるための17の目標」や理念の「誰一人取り残さない」を踏まえて策定しました。

SDGsとは

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

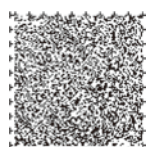
世界を変えるための17の目標

SDGsとは、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」で記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17の目標・169のターゲットから構成されています。

17の目標の中でも、「5ジェンダー平等を実現しよう」など一部の目標は、全てに共通して関係する目標となっています。

そのような目標は、本ビジョンにおいても全てのまちの姿に該当しています。

2030アジェンダに関するホームページはこちら



2 アジア・アジアパラ競技大会を契機としてめざすまちの姿(NAGOYAビジョン)

CONCEPT 【コンセプト】

夢や希望をはぐくみ、誰もが自分らしく生きる

- ◆アジア最大のスポーツの祭典を通じて、かけがえのない記憶と感動が夢と希望をはぐくみ、誇りと活力に満ち溢れた都市の姿を未来へつなぎます。
- ◆住む人も、訪れる人も、誰もが自分らしく生きるまちをめざします。

アジアとともに歩み、更なる飛躍を遂げる

- ◆SDGsの理念を踏まえるとともに、アジアをはじめとする世界の人々との相互理解を推進し、アジアとともに歩む姿を示します。
- ◆大会への取り組みを本市の飛躍へつなげ、持続的に発展する国際都市をめざします。

1

健康・地域活力
P.5

2

魅力・誇り
P.6

3

国際交流・多様性
P.7

4

イノベーション・
持続可能性
P.8



第20回アジア競技大会の開催

2026年 9月19日(土)~10月4日(日)



第5回アジアパラ競技大会の開催

2026年 10月18日(土)~10月24日(土)

リニア開業により更に拠点性の向上が
期待される広域的ネットワークの中心

多くのトップ・スポーツ
チームのホームタウン

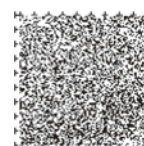
魅力的な観光資源と
拡大する交流人口

世界レベルの産業技術の
集積による強い経済力

便利で快適な
住みやすいまち

多様な
外国人が在住

名古屋市が持つポテンシャル



スポーツにより、市民が健康に暮らし、地域の活動が盛んになることで、活力ある都市になっている

アジア・アジアパラ競技大会を契機として、躍動するアスリートの姿を観ることでスポーツへの関心がより高まり、大会で実施されるアジア特有の競技を含む多種多様なスポーツを知ることで、スポーツは競技だけではなく、散歩やダンス、健康体操、サイクリングなど文化としての幅広い概念であり、一部の人のものではない「みんなのもの」という意識が浸透し、スポーツを日常生活の中に位置付けることができるようになっていきます。

このように、スポーツは年齢や性別、障害の有無、国籍などに関わらず誰もが参画できるものであり、すべての人がその適性や関心に応じて、楽しみながら日常的・自発的にスポーツを継続して親しむことで、子どもの健やかな心身を育むとともに、生活習慣病の予防・改善や介護予防に繋がり、市民の心身の健康増進や生きがいに満ちた生き方を実現し、健康長寿が実現したまちとなります。

また、スポーツ大会やトップアスリートとの交流、各種イベントの実施、さらには、ボランティアをはじめとする市民活動への参加意欲の高まりによる市民の社会貢献が定着することで、地域の一体感が高まり、活力に満ちたまちが実現しています。

■取り組みの方向性

1 アクティブライフの推進、健康増進

2 子どものスポーツの充実

3 地域活性化、市民活動の促進



FUN + WALK PROJECT

どうせ歩くら「楽しく歩きましょう」。スポーツ庁では、働き盛りの人に「歩きやすい服装」で通勤・勤務するプロジェクトに取り組んでいます。また、楽しく歩くきっかけづくりとなる「アプリ」(歩数に応じたゲーム機能やクーポン獲得)も提供しています。

毎日の通勤を少し工夫することで、一日の滑り出しがスムーズになり、ついつい歩いてしまうこともあるかもしれません。この「ついつい」が大切なのです。「気持ちがよく気がつけば歩いていた」となれば、その習慣はきっと長続きするでしょう。

スポーツ庁では、働き盛りの方のスポーツ参画人口拡大を通じて国民の健康増進を図る官民連携プロジェクト「FUN+WALK PROJECT」を推進しています。歩くことをもっと楽しく、楽しいことをもっと健康的なものに変えていく本プロジェクトにおいて、スポーツ参画人口の拡大を通じて国民の健康増進を目指しています。

歩くことを「もっと楽しく」に変えていくプロジェクト
FUN+WALK PROJECT



スポーツ庁
Web広報マガジンの
ホームページはこちら



(引用: スポーツ庁Web広報マガジン「DEPORTARE」～数字でみる!たった「10」分プラスで病気が防げる?)

スポーツが新たな都市ブランドのひとつとして確立されるとともに、名古屋の魅力が国内外に発信されることで、にぎわいあふれ市民が誇りをもてる都市になっている

アジア・アジアパラ競技大会の開催を契機に、継続的な大規模競技大会の誘致やトップアスリートの輩出につながり、スポーツが新たな都市ブランドのひとつとして国内外から認識され、市民が世界的なスポーツイベントを身近に体験することで、名古屋に対する市民の誇りと愛着が高いまちとなっています。

また、アジア・アジアパラ競技大会の開催を契機に、名古屋が「住みたい」「働きたい」「訪れたい」「投資したい」都市として人や企業から選ばれるために、スポーツにとどまらず、名古屋の充実した都市基盤や市民サービス、経済的な豊かさ、歴史・文化芸術を中心とした観光資源や食文化などの名古屋の魅力が国内外に発信(シティプロモーション)されることにより、名古屋の都市ブランドが浸透、確立され、本市への来訪を目的とした旅行者が増加し、にぎわいにあふれるとともに、大会を契機としてホスピタリティが向上し、本市を訪れる人を受け入れる環境が整った来訪者へのおもてなしが充実したまちが実現しています。

■取り組みの方向性

1 スポーツを活かした魅力の創出・発信

2 大規模競技大会・イベントの誘致・開催

3 アスリートへの支援

4 名古屋が有する魅力資源の発掘・向上・発信

5 インバウンドの促進、受入環境の整備

にっぽんど真ん中祭り～名古屋の夏の風物詩～

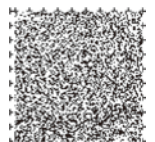
日本のど真ん中、真夏の名古屋を舞台に繰り広げる日本最大級の踊りの祭典にして、国内外から集結する約200チーム20,000人が地域色豊かな踊りを披露する、誰でも参加できる市民参加型の新しいスタイルのお祭りです。

4日間の来場者数は約200万人の観客動員を数え、名古屋の街は華やかなお祭り一色に。

それぞれのチームが情緒ある地域文化をリズムカルにアレンジした音楽にのせて、華やかな衣装や目を見張るほどの演出を繰り広げます。「観客動員ゼロ＝全員参加型」の祭りをコンセプトに掲げるとまつり。中でも参加者も観客も一緒に踊りが楽しめる、どまつり名物「総踊り」では、2010年にギネス世界記録™ "世界一の総踊り"として認定されました。



にっぽんど真ん中祭り
ホームページはこちら



大会で、アジアをはじめとした諸外国や多様な人々との交流や理解が深まることで、豊かな国際感覚を備え、多様性に理解を示す市民が増えるとともに、国際社会で活躍する人材が育ち・集う、開かれた都市になっている

アジア・アジアパラ競技大会を契機に、スポーツや文化など幅広い分野で国際交流や国際貢献を推進することにより、過去に大会を開催した都市などアジアをはじめとする諸外国との都市間ネットワークが強くなっています。

将来を担う若者たちが、諸外国の人との出会いや交流を通じて、国際感覚と世界に挑戦する意欲を高め、国際社会に貢献できるグローバル人材として成長しています。また、グローバル社会の中で夢をもって生きる子どもが育成されるとともに、世界で活躍する人材が国内外から集うまちとなっています。

さらに、年齢、性別、障害の有無、国籍、宗教、文化的差異などを越えた多様な交流により、国際感覚が養われ、多様性（ダイバーシティ）への理解が深まり、互いに支え合うことにより、全ての市民が暮らしやすい共生社会が実現しています。

取り組みの方向性

- 1 国際交流の推進
- 2 グローバル社会の中で活躍できる人材の育成・確保
- 3 共生社会の推進



アジアとの交流

本市では、アジアをはじめとする外国諸都市との交流を促進するため、分野を特定した都市間の連携を行う新たな都市間提携（パートナー都市連携）を推進しています。

<目的>

- アジアをはじめとする外国諸都市と分野を特定した都市間の連携を行います。

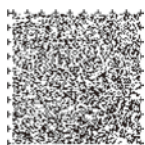
<内容>

- タシケント市とは「観光・文化」の分野で現地の文化や芸術、観光情報などを発信する市民向けPRイベントを実施しています。
- 台中市とは「観光」の分野で、相互送客を目的とした観光PRイベントを実施しています。



タシケント市（ウズベキスタン）との交流会

パートナー都市連携の促進に向けた取り組みに関するホームページはこちら





大会で、活用した都市基盤、先端技術、危機管理体制などが、大会モデルとして未来に引き継がれることで、絶え間なくイノベーションし続ける、持続可能な都市になっている

アジア・アジアパラ競技大会で拡大する交流人口を引き継ぐため、競技施設や交通ネットワークをはじめとする都市基盤について、リニア中央新幹線の開業を見据えるとともに、SDGsの理念を踏まえ、社会課題に対応した整備を進め、大会終了後もまちづくりやにぎわいの拠点になります。

また、安心・安全な大会運営を通じて危機管理体制が充実するなど、ハード・ソフトの両面から都市機能が強化され、大会の運営基盤やノウハウが蓄積されます。

さらに、大会で活用された先端技術が産業や市民生活に広く普及され、再生可能エネルギーの導入や省エネルギー化など、脱炭素で循環型のまちづくりが促進され、強い産業力に加え、環境にも配慮されたまちが実現しています。

こうした取り組みが、大会モデルとして未来へ引き継がれるとともに、絶え間なくイノベーションし続ける、持続可能なまちとなっています。

■取り組みの方向性

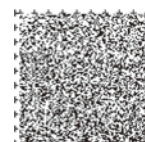
- 1 大会モデルの構築
- 2 大会後の活用を見据えた施設整備
- 3 利便性や防災性、危機管理体制を備えた都市機能の強化
- 4 イノベーションの創出、先端技術の活用・普及



リニア中央新幹線の開業

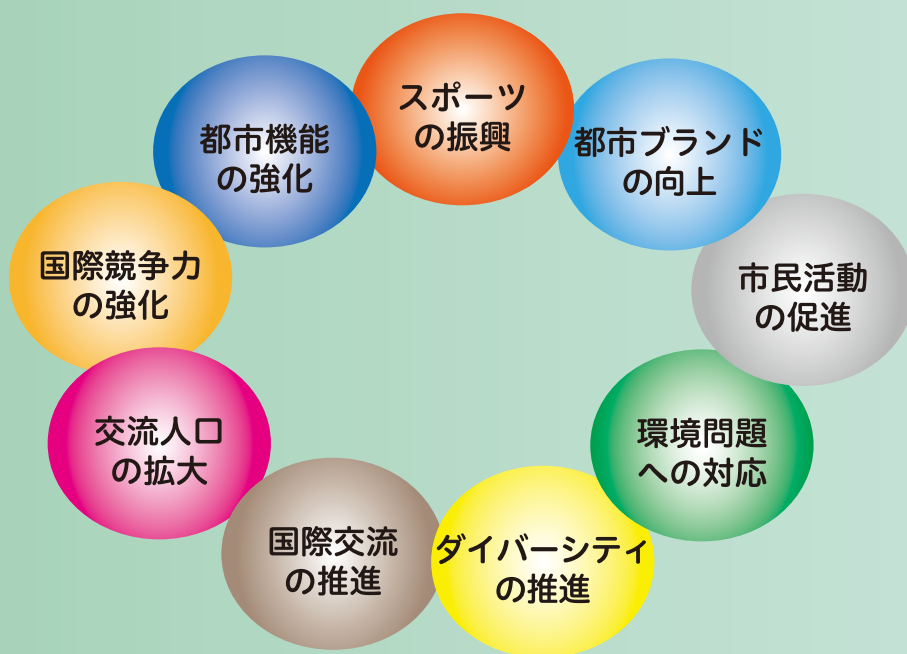
リニア中央新幹線により、東京から名古屋への移動時間が現在の約100分から約40分へ大幅に短縮されます。その後、東京から大阪までの全線開業が見込まれており、東京・名古屋・大阪の三大都市圏が約1時間で結ばれ、7,000万人規模の世界最大の人口を有する巨大交流圏を形成します。これにより、東京・大阪それぞれに人口、経済活動が吸い取られるストロー現象に陥る懸念がある一方、交流機会の増加に伴う新たなイノベーションの創出、時間と場所からの解放による働き方や暮らし方の多様化、海外からの人や投資の呼び込み、交通ネットワークの多重性・代替性強化や東京に集中する人口及び企業の中核機能等の分散による災害リスク低減などの効果が期待されています。

リニア中央新幹線の開業に向けた
都心まちづくりに関する
ホームページはこちら



3 愛知・名古屋大会の開催効果をレガシー形成へ

さまざまな開催効果をレガシー形成につなげ、より良い未来のNAGOYAへ



経済波及効果
1兆9,395億円
(全国)

大会の開催により、さまざまな効果が全国にもたらされると考えられており、経済波及効果は、愛知県内で1兆900億円、全国で1兆9,395億円になると試算しています。

◆経済波及効果の前提

需要増加額（対象地域に新たに発生した需要の増加額）の推計

・直接的効果 1,692億円

愛知・名古屋大会の開催に直接的に関わる投資・支出により発生する需要増加額を推計

・レガシー効果 7,519億円

大会のレガシーを見据えて実施される愛知県内での取組みを抽出し、各施策の指標等を参考に需要増加額を推計

第20回アジア競技大会及び第5回アジアパラ競技大会の経済波及効果に関するホームページはこちら



経済波及効果

単位：億円

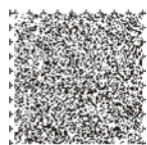
項 目	生産誘発額		粗付加価値誘発額		雇用者所得誘発額	
	愛知県	全 国	愛知県	全 国	愛知県	全 国
直接的効果	1,975	3,670	1,113	1,939	563	1,037
レガシー効果	8,926	15,724	5,172	8,597	2,470	4,429
合計	10,900	19,395	6,285	10,536	3,032	5,466

※億円単位で四捨五入。表の合計金額と各項目を合計した金額が一致しない場合がある。

※分析対象期間は、2016年（アジア競技大会招致決定）から2036年（大会10年後）まで

※試算にあたり、算定時点における大会開催内容の想定を基に、2015年産業連関表及び雇用表を利用して、第2次間接波及効果までを試算しているため、現在までの方針変更などには未対応

【令和4年7月公表 愛知県及び名古屋市による調査による】



夢や希望をはぐくみ、
誰もが自分らしく生きる

- ◆アジア最大のスポーツの祭典を通じて、
かけがえのない記憶と感動が夢と希望をはぐくみ、
誇りと活力に満ち溢れた都市の姿を
未来へつなぎます。
- ◆住む人も、訪れる人も、
誰もが自分らしく生きるまちをめざします。

アジアとともに歩み、
更なる飛躍を遂げる

- ◆SDGsの理念を踏まえるとともに、
アジアをはじめとする世界の人々との
相互理解を推進し、
アジアとともに歩む姿を示します。
- ◆大会への取り組みを本市の飛躍へつなげ、
持続的に発展する国際都市をめざします。

まちの姿
1

健康・地域活力

まちの姿
2

魅力・誇り

まちの姿
3

国際交流・多様性

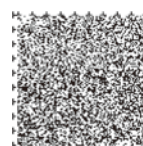
まちの姿
4

イノベーション・
持続可能性

未来の
NAGOYAへ

本市をあらゆる面でバージョンアップし、
市民のより豊かな生活の実現につなげる

総合計画や各分野における個別計画の
推進により、さまざまな分野にわたる
レガシー形成に取り組む



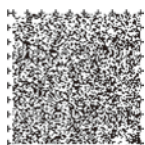
2026

アジア・アジアパラ競技大会 NAGOYAビジョン

—— アジアとともに輝く未来へ ——

発行・編集 名古屋市総務局
アジア・アジアパラ競技大会推進部
アジア・アジアパラ競技大会推進課
名古屋市中区三の丸三丁目1番1号
電話 052-972-2231
FAX 052-972-4205

発行年月 令和元年10月
改訂年月 令和7年 1月



アジア・アジアパラ
競技大会推進課
ホームページはこちら

